

○議長 辻本 一夫君

次に4番、萩原議員の一般質問を許します。萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

4番、萩原でございます。通告に従いまして一般質問してまいります。

件名1、学校における新型コロナウイルス感染症対策について。

3月に入りまして遠賀郡内の新型コロナウイルスの感染者数は減少傾向にありますが、去る1月15日、県内の新型コロナウイルスの新規感染者数は過去最多を記録し、1月27日にはまん延防止等重点措置が実施されました。その後、1月31日には遠賀郡内の新規感染者数は過去最多となり、町内の小学校では学級閉鎖が行われました。オミクロン株への置き換わりに伴い、10代以下の感染者数は増加しています。そのため、子供たちの学びの保障と心身への影響などを踏まえ、今後も慎重な対応が必要であると考えます。そこで次の点についてお尋ねいたします。

要旨1、学級閉鎖と学びの状況について。

今年に入り、町内の小学校でも学級閉鎖が行われております。芦屋町内の小中学校の学級閉鎖と、子供の学びの状況はどうなっていたのかお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

執行部の答弁を求めます。教育長。

○教育長 三樹 賢二君

まず、新型コロナウイルスに感染し陽性となったために行った学級閉鎖等は、これまでに3回行っております。1回目が山鹿小学校の学級閉鎖で1月29日（土）～2月2日（水）までの5日間、2回目が芦屋東小学校の学級閉鎖で2月2日（水）～2月6日（日）までの5日間、3回目が山鹿小学校の学年閉鎖で2月19日（土）～2月23日（水）までの5日間となっております。もともと各小学校では、2月に入れば希望者に対してオンライン授業を始める準備を進めていましたので、学級閉鎖等にも素早く対応することができました。

第1回目の学級閉鎖を行った山鹿小学校では、全ての学級で体育以外の授業を時間割どおりにオンライン配信し、100人以上が授業を視聴したとの報告を受けています。また、芦屋東小学校、芦屋小学校においても算数科を中心にオンライン授業を配信しました。この2校においては学習動画を視聴したりプリント学習を選択したりして、学習活動を組み合わせて学びの保障に取り組んだところです。2回目の芦屋東小学校の学級閉鎖では、先ほど申しましたように算数のオンライン授業を毎日1時間、プリント学習・学習動画を組み合わせて、全学級で時間割をつくって学びの保障に取り組みました。3回目の山鹿小学校の学年閉鎖では、これまでのオンライン授業の反省を生かして午前中のみ時間割どおりの授業配信をし、午後からはデジタル教材ドリルを用いた学習に加え、プリントを用いた学習を準備して学びの保障に取り組んだところです。

令和4年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

要旨2、学級閉鎖の判断基準と保護者へのお知らせ。

遠賀郡内でも感染が増加する中、保護者の方から「子供のクラスも10人くらいが欠席している。欠席理由は分からないが、そろそろ学級閉鎖になるのか情報が無いので不安です。」という声が届きました。確かに児童・生徒や保護者の方々に見れば、郡内の感染者の増加に伴い、学校に子供たちが行って多くのお友達がお休みしているというのを保護者の方が聞かればですね、その理由が分からないのでとても不安になったかと思います。そこでお尋ねします。

芦屋町の学級閉鎖の具体的な判断基準はどうなっているのか、御答弁を求めます。

○議長 辻本 一夫君

教育長。

○教育長 三桝 賢二君

学級閉鎖等の判断基準につきましては、まず、文科省の示した学級閉鎖の要件は以下の4つで、「いずれかに該当し、学級内で感染が広がっている可能性が高い場合、学級閉鎖を実施する。」とあります。

1つ目が、同一の学級において複数の児童・生徒等の感染が判明した場合。2つ目が、感染が確認されたものが1名であっても、周囲に未診断の風邪等の症状を有する者が複数いる場合。3点目が、1名の感染者が判明し、複数の濃厚接触者が存在する場合。4点目が、その他、設置者で必要と判断した場合というふうにあります。この文科省からの通達を学級閉鎖の判断基準としています。さらに、保健所からの指示や学校医さんからの助言等も考慮しています。

これらのことを踏まえて学級の欠席状況を分析して、学校現場を預かっている校長の意見を聞いて慎重に学級閉鎖等の判断をしています。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今、判断基準をですね、お伺いいたしまして、そういうふうになってるんだなというのは理解しました。で、そういうのがですね、今お伺いして分かったところで、それは保護者の方にはお伝えしてるんでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

教育長。

○教育長 三樹 賢二君

この件については内規的な扱いで、保護者の方にはお知らせしておりません。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

ある保護者の方からですね、「北九州市では学級閉鎖を行う目安を示している。」との声がありました。平成27年芦屋町人口ビジョンによりますと、本町に居住し、ほかの市や町に通勤・通学している約4,000人の中で、北九州市に通勤・通学している人は全体の約60%と、とても大きく占めております。子育て中の保護者が北九州市との違いに「どうしてなんだろう。」と思うのは、私は当然だなと思っております。

例えば、北九州市では教育委員会が学級閉鎖の基準を示し、それを受けて小学校のホームページで学級閉鎖やPCR検査の判断について公表しております。「この場合なら学級閉鎖を行う。」と明確な基準を示せば、児童や生徒、保護者の方々の不安は少しでも改善するんじゃないかなと、まあ軽減ですね、するのではないかと思います。

今年に入り、今までかつてないほど遠賀郡内で感染拡大しています。それがちょうど私立の高校の入試などの時期と重なりまして、受験生をお持ちの保護者の方々は本当に御心配だったんじゃないかなと思っております。今後、また感染拡大しないとは言えません。教育委員会で具体的な学級閉鎖の判断基準、今お示しということですが、学校とも協力しながら児童・生徒、保護者の方々が安心できるようなですね、お知らせ、お願いなどの情報発信を今後お考えになっていただくことはいかがでしょうか。その点についてお伺いします。

○議長 辻本 一夫君

教育長。

○教育長 三樹 賢二君

今、議員がおっしゃったように、北九州の判断基準は存じております。たしか学級に1名出て抗原検査等を行う、そういったような案件がありまして、途中で1週間の間に2名の陽性者が出た場合とか、確かに具体的な手順がありました。

しかし私が先ほど言いましたように、例えば1つの学級で仮に3人の陽性者が出たとします。その場合3人とも家庭内感染で、しかも日にちが空いて発生した場合、さらに学級の中に風邪症状の子がいなければ学級での感染は低いという判断に至って、臨時休業の必要はないと判断したことも私はございます。しかし同時に3人、こういったケースもありました。早退したという場

令和4年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

合、そして周りに風邪症状のある子供さんがいた場合は、先ほどと同じ人数でも感染の度合いが随分違うと思われま。3名の早退者、周りに風邪症状の子がいれば、当然学級内で感染が広がっているという判断に立てると思いま。

したがって、具体的な数字を挙げて「この場合は必ず臨時休業しま。」というのは、なかなか当てはまりませ。それぞれの感染の状況であったり学級の欠席状況であったり、また、学校長の判断であったり学校長の願いであったり、そういったものが判断材料の中に入ってきますので、具体的な数値を挙げて「こうなれば臨時休業しま。」というのはなかなか当てはまらないと考えて、なかなか具体的なお知らせができにくかったという状況でございます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

個々の事情もあるかと思うんですが、実際こう「不安だ。」というお声が届いているのは事実です。そこはどうにかしっかり、ちょっと受け止めていただきたいなと思っております。

次ですね、要旨3、感染症対策の強化・徹底について。

長引くコロナ禍で、小学校でも3密の回避・マスクの着用・手洗いの徹底など、基本的な感染症対策を学校衛生管理マニュアルに基づき進めておられたと思いま。今回、オミクロン株の感染が10代以下に急増する中、感染症対策の強化・徹底を新たに図ったものがあればお聞かせください。

○議長 辻本 一夫君

教育長。

○教育長 三柵 賢二君

特にこれまでと違った対応というのはございませ。

例えば、こういったオミクロン株が発生してきましたので、学校長には「これまで以上の感染対策を徹底するように。」ということを示したところであります。

幸い、芦屋町では12歳以上の児童・生徒のワクチン接種、また、我々教職員についても優先接種していただき、既に2週間が経過している職員が大半です。これまで陽性になった教職員はいませし、職員を介して感染が広がるおそれは低いと考えられます。したがって、これまでどおりの感染症対策を継続・徹底していくということを考えておりまして、特に「新しくこれをなさい。」ということはしておりませ。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

令和4年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

要旨4、オンライン授業の課題と今後について。

2月24日の朝日新聞に「第6波 学級・学年閉鎖が急増」という記事が出ていました。感染拡大で学級閉鎖や学年閉鎖が大幅に増え、学びの機会がこれまで以上に厳しくなっている状況下で、小中学校では1人1台行き渡ったタブレット端末を活用し、先生が自宅からオンライン授業に取り組んでいるケースも増えているとの内容でした。

また、福岡市では3月上旬に公立高校の入試を控え、市の教育委員会は各中学校に「状況に応じて、受験の1週間前にはオンライン授業での対応を」と通知していると書かれていました。保護者の方から、入試前やクラスで欠席者が増えたときはオンライン授業を望む声がありました。

「実際、北九州市の中学校では入試前に強くオンライン授業を推奨している中学校もある。」というふうに保護者の方からお話があり、「芦屋町はどうなっているのかな。」という声も届いております。そこでお尋ねいたします。

芦屋町の小中学校のオンライン授業の状況は先ほどもありましたが、話に上がっていなかった中学校とかほかの学校の話もありましたら、お話を聞かせてください。

○議長 辻本 一夫君

教育長。

○教育長 三樹 賢二君

小学校の取組については先ほどお話をさせていただきました。中学校ですけれども、中学校が少し出遅れた感がございます。

1つは、小学校でオンライン授業を準備し始めた時期は、ちょうど今、議員がおっしゃったように中学校では入試のシーズンでした。やはり中学校全体として入試に対する準備が1番であること、また、教科担任制であることなどから中学校において若干難しい面があり、取組が遅れたのは事実でございます。

しかし、2月21日（月）から1・2年生を対象に、希望する生徒に対して学習プリントを使って復習をする、これが1つ目の学習課題です。2つ目、インターネット上の学習動画を視聴する。そして3つ目、学校より配信される授業、この場合は数学と英語を中心にしているんですけども、視聴するというので、少し遅れましたけれども中学校においても学びの保障を始めたところです。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

まずですね、山鹿小学校は1日通してオンライン授業しましたということで、とても山鹿地区の保護者の方からはですね、「とてもよかった。」というお声をいただいています。で、あと東小学校に関しましては山鹿小学校とはまた違うんですけど、1時間ですよ。で、双方の地区、芦屋地区と山鹿地区で、自分の地区がこれが普通だろうと思っていたら、山鹿のほうは「え？1日やってたの？」って。山鹿のほうにお住まいの方は「え？芦屋方面のは1時間だったの？」って、「何で同じような学級閉鎖なのに、ちょっと学びのやり方が違うんだろう。」というようなお声も聞きました。

あとですね、中学校に関しましては今、皆さんがオンライン授業というふうに保護者の方がよく言われるのは同時双方型ですね。よくZoomとか今ありますよね。そういったことを想定されてると思うんですけど、今の中学校の話だと、プリントを私も見させていただきました。2月21日にお出しになられてる分ですよ。これを見られた保護者の方がですね、「中学校もオンライン授業やるんだ。」というふうな思いで見られたら、「え？何で1日1時間なの？」って、「あ、これ視聴なんだ。」っていうようなことを言われて、「じゃあ、山鹿小学校のやり方とは違うのね。」っていうようなお声が来たんですね。

この、学校によってオンライン授業の運用に違いがあるのは、何か理由があるのか教えていただけますか。

○議長 辻本 一夫君

教育長。

○教育長 三榎 賢二君

小学校の例でいきますと、山鹿小学校が時間割どおりの授業を流したという形になってます。で、芦屋小学校と芦屋東小学校は教科を絞って配信して、プリント、そういったものと動画を組み合わせたやり方ということで、2つに分かれた形になっております。

これは、なぜこういった形になったのかということですが、形が違うことによって学力、学びの保障に差が出るとは考えておりません。その学びの保障に向かうアプローチの仕方が、時間割どおりの授業を流すのか、一方、教科を絞った形で授業を配信して、プリントあるいは動画を組み合わせた形でのアプローチの仕方というふうに方法的に2つに分かれますけども、違いがそのまま内容の差になって現れるとはまず考えていないのが1点目でございます。

で、どうして授業配信の形が変わったのかということですが、これはもともと、芦屋町はICT機器を効果的に使った算数科学習というのを、もともとずっと研究をしてまいりました。その中で、芦屋東小学校と芦屋小学校は授業を中心にICT機器、タブレットを効果的に活用するという研究の中身を進めてきておりました。一方、山鹿小学校はタブレットを家庭に持ち帰って予習的な扱いをして、そしてそれを翌日の授業の中で「さん、はい。」で、自分の考えを述べて

令和4年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

共同的な学びにつなぐというような、研究の中身のアプローチの仕方がもともと違ってたんです。

したがって、山鹿小学校がオンラインにはなりやすいような研究の進め方をしてまいりましたので、山鹿小学校は時間割どおりのオンライン配信の仕方をした。芦屋東小学校と芦屋小学校は、これまでやってきた授業の中で算数科の授業を中心に研究をしておりましたので、特に2つの学校は算数科の授業を中心にオンライン配信をしたという、これまでの研究の経過からオンラインの配信が違ってたという経緯がございます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今、教育長からお話をいただいて、実はですね、東小学校のホームページにもですね、ICTの取組がとてもよく出されてるんですね。「こういうことをやっています。」というのが出されてきて、しっかり学校がですね、取り組んでいるのは、これを見ても十分、分かったんです。

ただ、学校によって様々なそのアプローチの方法を、研究ということで取り組んでおられたというのは今初めて知ったところで、そこの中で今オンラインが始まったところではあるので、何が一番いいかが分からないところもあると思うんですよ。1日オンラインをやって、やっぱり長時間は疲れるということもあると思うんですね。ただ、やっぱりみんなと会う、その時間に学ぶというところは、どうしても強制的に行われるので、机に向かう時間というのはやっぱり増えたと思うんです。で、1時間しかないとそれ以外のところがですね、自習学習であれば「ちょっと休憩しようか。」とか、そういうこともやっぱりあったんじゃないかなと思うんですよね。

そうすると、トータルして何が学びにつながっていくのか今から調査研究なんだろうとは思いますが、それを町内の学校間でやってるとするのは、ちょっと私初めて今知って、それを保護者の方、児童・生徒が理解して今取り組んでおられるんだったらいいんですけど、その点はそういうのもお伝えした中でやられてるんでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

教育長。

○教育長 三桝 賢二君

これは、保護者にはお伝えしておりません。それぞれの学校の研究のテーマ、中身をなかなか保護者の方に御説明してもちょっと難しい面がありますし、基本、先ほど申しましたようにオンラインの手法によって学校間格差、内容の格差は出てこないという前提の下で行っておりますので、そういった研究の中身からオンライン配信が違ったということは御報告しておりません。

ただ1点、それぞれの学校の中でオンライン配信をやった後のアンケート調査をとっております

令和4年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

す。例えば、こういうのがございます。まず、オンラインで実は授業配信しているのはですね、直方・鞍手地区、遠賀・中間地区では、今のところ芦屋町だけだというふうに捉えております。これは先ほど申しましたように保護者アンケートの結果を見ると、配信を受講した家庭の75%の家庭が効果を実感しております。そして、もう一度機会があれば受講したいという家庭が86%の家庭がございまして、オンライン授業を受けた保護者からは議員がおっしゃられたように「大変ありがたかった。」という声を聞いております。

やはりドリルだけで学習するよりも、Teamsを使ってオンラインをやっているわけですが、子供の声聞こえたり、1番はやっぱり先生からの声かけ、励ましが1番大きかったなということがありましたので、基本、オンライン授業の配信の形が変わっても保護者の方々の満足度は高いものであったなというふうに捉えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今アンケートもとられて、とてもいい回答があったという話で、やっぱり不安を抱える御家庭はとても助かったんだと思います。特にですね、入試を控えている生徒の心身の把握やサポートって重要じゃないかなと思うんです。で、直接顔を見て様子を見れば、ある程度は元気にしてるんだろうっていうようなことも本当に把握できると思うんですね。

ただ、残念ながら中学ですね、オフラインなんです。で、やむを得ず登校できない児童・生徒、東小学校とかは1日1時間は、参加する人は顔を合わせた。でも中学に関しては、学級閉鎖は今してませんが予防とか事情があってお休みしている子たちが、今、中学校はやってないので、心身の状況を毎日把握というのがなかなか難しいんじゃないかと思うんです。で、授業も教科担任制で替わりますので、なかなか難しい。ただ、朝の会とかですね、健康観察とかでは担任の先生とかが何かできるんじゃないかなと私は思うんですけど、その点はどうなんでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

教育長。

○教育長 三柵 賢二君

これは小学校の例ですけども、小学校はそういったことから入っております。結局、オンラインに入るときには接続を確認しないといけませんので、接続を兼ねて「元気でしょうか。」という健康観察はできます。

先ほど申しましたように、中学校も希望があればオンライン授業はできます。中学校も準備のために、お互いに学校の中でオンラインでやってみるとか、そういった取組をしながら、希望が



令和4年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

あればいつでもオンライン授業ができるという取組を続けておりますので、これはもしそういった不安があれば、学校に言っていただければオンライン授業の配信ができるというふうに考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

ちょっと時間がないので、なかなか保護者の方が言えないので私がちょっと申し上げますと、プリントを見させていただいたらですね、確かに対象者、家庭学習を進めることにしましたと。

「あ、よかったな。」と私は思いました、これを見て。で、対象者がですね、もちろん感染者で登校できない生徒さん、それはもう全然問題ないと思うんです。ただ、この（2）にですね、「登校に大きな不安を抱え、自宅での学習を強く希望する生徒」、なかなかこう書かれるとですね、「確かに不安は抱えとるよね。だけど、強く希望するって言われてもね。」って。なかなかやっぱり、これで先生に個別でちょっとお願いしようかなっていうのは、何かちょっと難しいんじゃないかなと思うんです。

やっぱりもう少しアンケートとかですね、もう少し、こう……。保護者の方からこうやって私のところに御相談の声が何件か入ってくるということは、なかなかやっぱり思っても言いづらいところもあるんじゃないかなと思うんです。この辺をもう少しですね、教育委員会の委員長のほうで学校の方ともよく御相談していただいて、御協力していただいてですね、何か保護者の方、児童・生徒がやっぱりちょっと自分の思っているところをですね、素直にというかお伝えできるような何かしていただくと、もう少し安心していけるんじゃないかなと思っております。

すみません、お時間ないんですけど、最後ですね、教育長にですね、芦屋町の行政、しっかりかじ取りしていただかないといけないと思います。そこで、コロナ禍における学校行政に対する教育長の方針、そして教育委員会の役割についてどうお考えなのか、お時間ちょっとあまりないんですけど、どうぞよろしくお願いいいたします。

○議長 辻本 一夫君

教育長。

○教育長 三榎 賢二君

コロナ禍で、子供たちが楽しみにしている様々な学校行事や活動が中止や延期になったり、内容を縮小して実施せざるを得ない状況になっていますが、芦屋町の強みであるICT機器を日常の授業や緊急時のオンライン授業、また様々な児童・生徒の教育活動に活用して、芦屋町の教育の質を高めていきたいと考えています。

令和4年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

そして、何よりも子供たちが安全で安心な学校生活、充実した学校生活が送れるように、全力で各学校を支援することが教育委員会の役割だというふうに考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

もうちょっとと言われるかと思いましたが、すみません。時間がなくて申し訳ございません。

あのですね、昨日、受験をお迎えになられるですね、保護者の方とちょっとお話する機会があったんです。その方がですね、私が「入試でとっても不安じゃない？」っていうふうにちょっとお話したらですね、「もちろん入試も不安だ。」って。「だけど子供のやっぱり健康が、感染が心配なんだ。」って。で、それに加えて「情報がないことがこんなに不安なんだって思った。」っていうふうに言われたんですね。やっぱり遠賀郡も、とても今回感染が増えたので、本当に御心配だと思います。で、これ多くの保護者の方が感じていることなんじゃないかなと思います。

学校関係、教育委員会の方は本当に一生懸命、このコロナ禍で御尽力していただいているのは十分に分かってるんです。だけど、やっぱりそういった児童・生徒、保護者の声を、よかったらもう少し拾っていただきたい。これが、今回お伝えしたいことです。

これからもですね、芦屋町は一生懸命、町も町長が支援していますので、ぜひとも頑張ってください、子供たち、保護者の不安を少しでも取り除いていただきたい。

これで、私の一般質問とさせていただきます。ありがとうございました。

○議長 辻本 一夫君

以上で、萩原議員の一般質問は終わりました。